

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○微生物・プリオン・自然毒

欧州疾病予防管理センター(ECDC)、欧州連合/欧州経済域内において2006～2009年に発生した6つの主要な食品及び水媒介感染症の調査報告書を公表

公表日：2013年9月9日 情報源：欧州疾病予防管理センター (ECDC)

<http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/food-and-waterborne-diseases-surveillance-report.pdf>

欧州疾病予防管理センター(ECDC)は9月9日、欧州連合/欧州経済(EU/EEA)域内において2006～2009年に発生した6つの主要な食品及び水媒介感染症の調査報告書を公表した。

本報告書は、EU加盟国及びEEA3か国(アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー)からの報告に基づき作成された6つの主要な食品及び水媒介感染症であるカンピロバクター症、志賀毒素/ベロ毒素産生性大腸菌(STEC/VTEC)感染症、サルモネラ症、細菌性赤痢、エルシニア症及びリステリア症並びに腸チフス、パラチフスに関するもの(報告数は実数)。

- ・2009年のカンピロバクター症の報告数は2006年と比べて13%増加し、201,605人であった。2007～2009年の患者の90%がEU/EEA域内で感染していた。
- ・2009年のSTEC/VTEC感染症の報告数は2006年と比べて9%増加し、3,698人であった。2007～2009年の患者の79%がEU/EEA域内で感染していた。
- ・サルモネラ症は2006～2009年の間に53,854人減少(減少率33%)し、2009年の報告数は109,893人であった。特に*Salmonella Enteritidis*感染症の報告数の減少は顕著で、4年間に44%減少した。しかしながら、サルモネラ属菌が原因の集団食中毒が数件発生している。2007～2009年のサルモネラ症患者の86%がEU/EEA域内で感染しており、域内には依然サルモネラ属菌がまん延していることが示唆された。
- ・細菌性赤痢の報告数は2007～2009年で13%減少し、2009年の報告数は7,621人であった。2007～2009年の症例の3分の2はEU/EEA域外からの輸入症例であった。
- ・2009年のエルシニア症の報告数は2006年と比べて16%減少し、7,638人であった。2007～2009年の患者の97%が国内で感染していた。ヒトでの最も一般的な血清型はO:3(90%以上)であった。
- ・リステリア症の報告数は、4年間で傾向に変化はなく、2009年の報告数は1,638人であった。患者のほぼ全員が国内で感染していた。全ての年齢層において最も一般的な血清型は4b及び1/2aであった。
- ・腸チフス(訳注:サルモネラ属菌の1種であるチフス菌が原因の感染症)の報告数は2008～2009年で傾向に変化はなく、患者数は630人であった。2009年のパラチフス(訳注:サルモネラ属菌の1種であるパラチフスA菌が原因の感染症)の報告数は微減し586人であった。腸チフス・パラチフスの原因の大半がEU/EEA域外への旅行と関係していた。
- ・患者致死率は、リステリア症を除く主な感染症では1%未満であった。リステリア症の2007～2009年における致死率は17～20%であった。

○関連情報(国内)

- ・厚生労働省：食中毒統計 <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/04.html#4-2>

年別原因別食中毒発生状況(患者数)

注：()内は死者数、リステリアはデータ無し

年	カンピロバクター・ ジェジュニ/コリ	腸管出血性大腸 菌(ベロ毒素産生)	サルモネラ属 菌	赤痢菌	エルシニア・エ ンテロコリチカ	リステリア	腸チフス	パラチフス
2006年	2,297	179	2,053 (1)	10	0	—	0	0
2007年	2,396	928	3,603	0	0	—	0	0
2008年	3,071	115	2,551	131	0	—	0	0
2009年	2,206	181	1,518	0	0	—	0	0

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciiis/>) をご覧下さい。